

2016年度名古屋大学教育学部附属高等学校3年生に対する 選挙に関するアンケート調査

隅田久文

【抄録】 2015年の公職選挙法改正を受けて、2016年から選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられた。新たに選挙権を付与された2016年度の本校高校3年生にアンケート調査を行い、集計をした。

【キーワード】 選挙権年齢の引き下げ 参院選 投票率

1. はじめに

2015年の公職選挙法改正により、選挙権年齢が満20歳以上から満18歳以上に引き下げられ（2016年6月施行）、2016年の第24回参議院議員通常選挙の際には、大きな話題となった。

本校では、2015年度より高校1年生の総合人間科において、PBL（Project Based Learning）の手法を用いた課題探究を後期に実施している。2016年度に筆者が担当したグループでは、「若年層の政治への関心を高めるにはどのような方策を講ずるべきか」というテーマで探究を行ったが、その際に、グループの生徒から高校3年生へのアンケート調査を行いたいという提案があった。本稿は、その際に実施したアンケート調査を、調査を行った高校1年生（当時）の生徒の了解の下で筆者の方で再集計したものである。

2. アンケート集計

(1) 実施の概要

高校1年生の総合人間科で、後期に行っているPBLを進める上で実施したアンケート調査で、高校3年生を対象に2016年12月に無記名で実施した。111名から回答が得られた。

(2) 回答

1) 7月11日の参院選の時点で有権者でしたか。

はい	43人 (38.7%)
いいえ	68人 (61.3%)

2) (この質問は前の質問ではいと答えた人のみ回答)
実際に参院選は投票に行きましたか。

はい	36人 (83.7%)
いいえ	7人 (16.3%)

3) 来年衆院選があれば投票に行きますか。

行く	58人 (52.3%)
たぶん行く	37人 (33.3%)
わからない	12人 (10.8%)
たぶん行かない	0人 (0.0%)
行かない	4人 (3.6%)

4) 来年もし自分の市町村の選挙（市町村長選挙・市町村議会選挙）があれば投票に行きますか。

行く	51人 (45.9%)
たぶん行く	38人 (34.2%)
わからない	18人 (16.2%)
たぶん行かない	0人 (0.0%)
行かない	4人 (3.6%)

5) 参院選の投票率は、全体で54.7%、70～74歳で73.4%だったのに対して、18歳の投票率は51.2%、19歳の投票率は39.7%という低い結果になりました。このことについて意見を書いてください。

- ・若い人たちの意見が反映されにくい社会だと思う。選挙権が引き下げられたことで、今までよりも若い人たちの意見を取り入れやすくなったのだから、きちんと投票し、社会について考えるべき。
- ・投票に行くべきだという意識が若年層にはあまりないと思う。
- ・政治が日本のこれからを担っているという事実を認識していないから投票率が低い。
- ・若者が国に対しあまり期待していないことのあらわれ。
- ・一票の価値に対する考えが浅い。
- ・もっと行くべきだと思う。
- ・若い人が政治に興味がないのは悲しいと思った。このままだと有権者がなめられてしまうと危機感を持った。

- ・政治について知らないなら投票しない方が良い。
 - ・高齢者を優遇する政策を出す人たちを選んでるので、若者が興味を持たないのは当然なので結果には納得した。
 - ・現在は、主に社会保障系の政策の方が注目されており、若年層にとってすぐに影響を受けるものが少ないため、関心が比較的低いのではと考えられる。
 - ・やはり若者の選挙に対する意識は低い。
 - ・行かないというのも一つの選択肢だと思っている。
 - ・18歳は、「18歳選挙権」という言葉でマスコミ等で報道されたりしたために少し高め（それでも少ないと思うけど…）だったが、19歳は微妙な年齢だったために投票率が低かったのだと思う。
 - ・若者がいくら投票したところで高齢者人口に勝てないのを見えているのではない。
 - ・自分が有権者ではないのでわからない。
 - ・世代間の政治への関心の程度がはっきり表れたと思う。
 - ・今回の投票率には結びつかなかったとしても、たくさんの人にとって政治について考えるきっかけとなり、次の投票につながればよいと思う。
 - ・若い人が悪いということはないと思う。40～50歳代も決して投票率が良いわけではないと思う。政治家が有権者に「投票しなければ」という思いにさせるぐらいにレベルが上げれば投票率もついてくると思う。
 - ・大学進学後の住民票のある地域と、選挙権がある地域が異なる場合がありその点が複雑そうであった。
 - ・受験生ということもあり、時間がなかったのでは。
 - ・とりあえず投票率を上げるべきだとは思いますが、それ以前にもう少し政治について考える機会を与えられるべきだと思う。
 - ・自分の一票では何も変わらないと考える人が多い。「だから何も変わらなくなるのだ」と声を大にして言いたい。
 - ・何も知らない若者が投票するより、(政治を)よく知って自分の意見を持っている人が投票する方が良いと思う。というか、何も知らない人が投票するので良い政治家が選ばれないのではないかと思う。
 - ・正直、自分の考えに合う候補者がいなければ投票しないというのは、当たり前である気がするので仕方がないと思う。国会での討論などを見ていると、「なんか政治家って…」とってしまう。
 - ・19歳の投票率よりも18歳の投票率が高いというところから見て、学校教育の中で「選挙」を扱うことが、投票率に強く影響するのではないかと思った(公民or現代社会の授業で取り扱えば投票率は上がるかも)。
 - ・初年度だった割には高い投票率だと思ったので、あまりネガティブなイメージはない。
 - ・未来を生きていくのは若者だから、自分たちの生きたい世界をつくっていくべきだ。
 - ・18歳の投票率は決して悪くない。
- 6) どうしたらもっと多くの若い人たちが選挙に行くようになると思いますか。意見を書いてください。
- ・海外の一部の国のように、罰金制度(義務投票制)を設ければよいと思う。
 - ・お祭りのようにしたら楽しい。
 - ・もっと小中学校で政治の重要性を学ぶべき。
 - ・インターネットで呼びかける。
 - ・駅で投票するなど、有権者の手間を減らす工夫をする。
 - ・話の上手な人が、政治についての講演会をやる。
 - ・政治に興味の持つような授業などをする。
 - ・若い人が政治家になるような政治になればよい。
 - ・義務にする。
 - ・インターネットを利用した投票。
 - ・学生が多いので、高校や大学に投票所を設置すればいいと思う。
 - ・選挙に行った人は割引とかいう制度をもっと広げる。
 - ・少ない時間で立候補者がどのようなことを掲げているか分かる資料を学校で配布してほしい。
 - ・献血のように、お菓子食べ放題・ジュース飲み放題スペースを設置する。
 - ・投票に行くのがめんどうだから、家でも投票できるようにすればよいと思う。
 - ・若い人たちに向けた政策を増やす。
 - ・立候補者の主張や選挙のしくみを、もっとわかりやすく明確にして(表などにして)、比べやすくする。
 - ・しおりではなく、もっと良いものを用意する(トイレトペーパーなど)。
 - ・投票しないことが続く人から選挙権をはく奪するなど、何らかの新しい影響の大きい施策を採る。
 - ・自分の生活に直結しているのが感じられるようになれば。
 - ・小学校の授業から政治の授業を必須にする。
 - ・白票にも意味があることを広める。
 - ・もっとアメリカのように投票を盛り上げるべき。小学校から模擬投票を行って、デコレーションなどをして楽しい雰囲気をつくる。
 - ・政治家がもっとわかりやすい言葉で話すようにするだけでも変わると思う。
 - ・学校教育の中で模擬選挙をするなどして、「自分も社会の一員である」という意識を持たせることが大切だと思う。
 - ・選挙に行くハードルを下げる企画があってもよいと思う。

- ・衆院の選挙制度を中選挙区制に戻す（死票を減らすことで、自分の意見が反映されていると実感させる）。
- ・地道な啓発活動が一番だと思う。
- ・メディアで政策の成果などをもっと報道すべき。

3. まとめ

本アンケートは、選挙権年齢が引き下げられた年の高校3年生に対して行ったものであり、貴重なデータである。参院選が7月実施ということで、有権者はおおよそ学年の中で4割ほどであったが、投票率は83.7%であった。これは、一部の選挙管理委員会や教育委員会から発表された数値と比較しても高い数値となっており、本校生徒の関心の高さがうかがえる（注1）。また、質問5）および質問6）については多様な意見が出されたが、生徒の政治への関心を高めていくためには、学校現場もより一層の役割を果たしていくことが重要であるということが読み取れる。主権者教育のさらなる深化が必要と言えよう。

【注】

- (1) 明るい選挙推進協会「第24回参議院通常選挙における高校3年生（相当）の投票率と参院選後の地方選挙における18-19歳の投票率」『Voters No.37』、2017年